新聞　第3種郵便物認可　朝日新聞 2009 1月14日

シニアの味方 情報紙

西東京・発行もシニア

西東京市の公民館講座をきっかけに集まった人たちが、シニア向けの地域情報紙を創刊した。ひとり暮らしのお年寄りを主なターゲットに、生活に役立つきめ細やかな情報を届けるのが編集方針。2月に発行予定の創刊2号に向けて着々と準備が進む。（小林伸行）

読者の反応をリサーチし、編集会議でニーズを掘り下げる＝西東京市内

独居に厚く、ヘルパー宅配

情報紙の名前は「きらっと☆シニア」。06年に公民館が主催した情報誌づくり講座に参加した70歳前後の人たちを中心に、08年の地域リポーター養成講座の修了者を加えた計22人ほどが編集した。西東京市の企画提案事業に応募、採択され、補助を受けた。元新聞記者や元出版関係者といった経歴の人たちも交え、昨年8月ごろから具体的な紙面の企画を練った。

月刊で、この1月付けで第1号を出した。毎号にテーマがあり、今号は「見まもり」。高齢者のために市がつくった相談窓口や地域活動を紹介し、活動にかかわる人たちのインタビュー記事などを掲載した。

創刊号の部数は3500。小部数でも必要としている人たちに確実に届けようと、配布方法に工夫をこらした。公民館や関連施設に置くだけでなく、市の地域包括支援センターの協力を得て、お年寄り宅を訪問するヘルパーさんに情報紙を託した。訪問先で希望者がいれば手渡すという。読者を絞りこんだクラスマガジン的な内容でありながら、いわば簡易の宅配システムを持つという、あなどれないメディアだ。

代金は無料。広告はない。市の補助は、とりあえず今年度まで。先々の財政見通しは不安だが、取材から流通まで、かかわる人の大半はボランティアで、印刷機も公民館の備品を使わせてもらっているので、実質的な経費は「ほぼ紙代だけ」（編集幹部）というのが強み。

すでに11号までのテーマを決めており、スタッフはやる気満々だ。

2月に出る2号のテーマは「食」。高齢者が始める男の料理のインタビューや、配食サービスの取材など、作業は順調だ。